

### 3 画像による石綿を原因とする肺がんに係る症例詳細検討結果

- ・ 症例番号：19201
- ・ 症例番号：19202
- ・ 症例番号：19203
- ・ 症例番号：19204
- ・ 症例番号：19205
- ・ 症例番号：19206
- ・ 症例番号：19207
- ・ 症例番号：19208

以上 8 症例

## 肺がん症例詳細検討結果

症 例 : 60 歳代 男性

石綿ばく露の可能性 (診断書より)

20~25 歳 空調整備の職業に従事。

## 現病歴

平成 18 年 8 月頃から左背部痛が出現し受診。CT 上、左肺下葉背側に腫瘍を認めた。

平成 18 年 10 月気管支ファイバー下で生検を実施し、肺がん (腺扁平上皮癌) と診断。

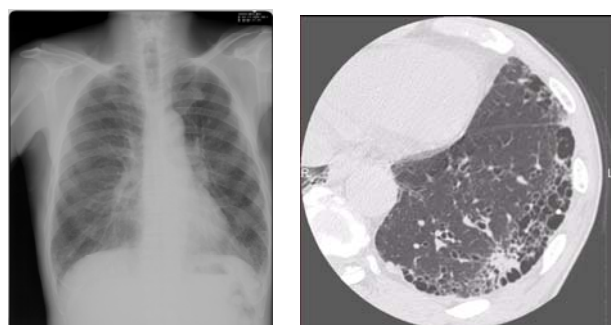
放射線画像所見 (エックス線フィルム、CT フィルムによる所見)

胸部エックス線フィルム	平成 18 年 9 月	2 枚
胸部 CT フィルム	平成 18 年 9 月	CD-ROM 1 枚

原発部位	左肺 末梢 (肺野型)
組織型	その他 (腺扁平上皮癌 )

	胸膜プラーク	肺線維化所見
胸部 X 線フィルム	(+)	(+)
胸部 CT フィルム	(+)	(+)
胸部 HRCT フィルム	-	-
画像所見	胸部単純 X 線写真および胸部 CT で、両側に多数の石灰化プラークを認める。	肺線維化所見に関しては、気腫線維化が主体であるが、小葉部中心にも陰影がみられる。

## 腫瘍



胸膜プラーク



肺線維化所見



## 肺がん症例詳細検討結果

症 例 : 80 歳代 男性

石綿ばく露の可能性 (診断書および自記式アンケートより)

昭和 14~21 年 海軍にて機関士として従事。

## 現病歴

胸部 X 線上、増大傾向のある腫瘤を認め、肺がんを疑い平成 19 年 5 月に手術。年齢、肺機能を考慮し、胸腔鏡下右肺部分切除術を施行。

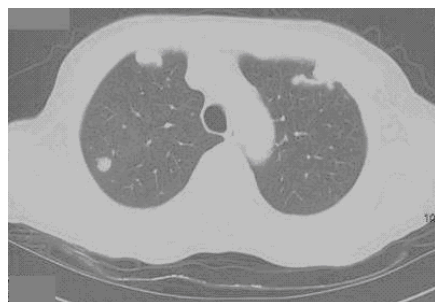
放射線画像所見 (エックス線フィルム、CT フィルムによる所見)

胸部エックス線フィルム	平成 19 年 5 月 1 枚
胸部 CT フィルム	平成 19 年 4 月 6 枚

原発部位	右肺 末梢型 (肺野型)
組織型	小細胞癌

	胸膜プラーク	肺線維化所見
胸部 X 線フィルム	(+)	(-)
胸部 CT フィルム	(+)	(+)
胸部 HRCT フィルム	-	-
画像所見	胸部単純 X 線写真および胸部 CT では典型的な胸膜プラーク、多発石灰化プラークを認める。	胸部単純 X 線写真では、肺線維化所見不明。 胸部 CT にて、胸膜下線状陰影を主体とする所見を認める。

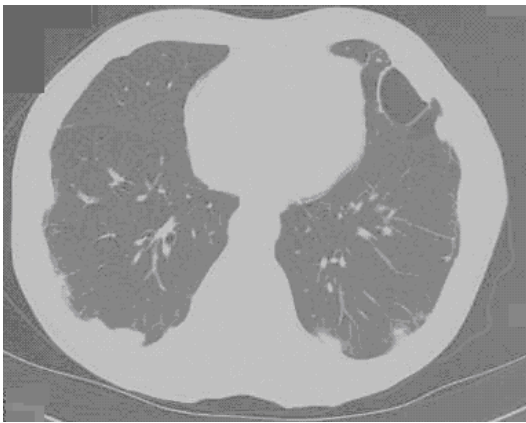
## 腫瘍



胸膜プラーク



肺線維化所見



## 肺がん症例詳細検討結果

症 例 : 60 歳代 男性

石綿ばく露の可能性 (自記式アンケートより)

昭和 49~59 年 石綿製品加工業に従事。

## 現病歴

平成 17 年 12 月、咳嗽および血痰が出現。胸部 X 線にて右中肺野に空洞を伴う腫瘤影があり、気管支鏡検査で肺がんと診断。

平成 18 年 2 月右下葉切除・縮小リンパ節郭清術を施行。病理組織学的検査により扁平上皮癌と診断。

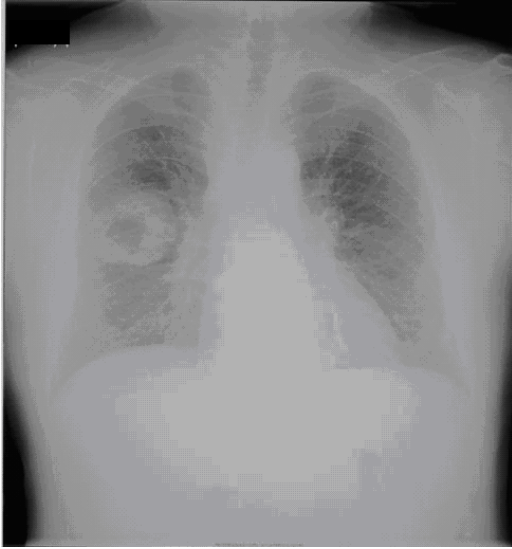
放射線画像所見 (エックス線フィルム、CT フィルムによる所見)

胸部エックス線フィルム	平成 18 年 2 月	1 枚
胸部 CT フィルム	平成 18 年 2 月	9 枚

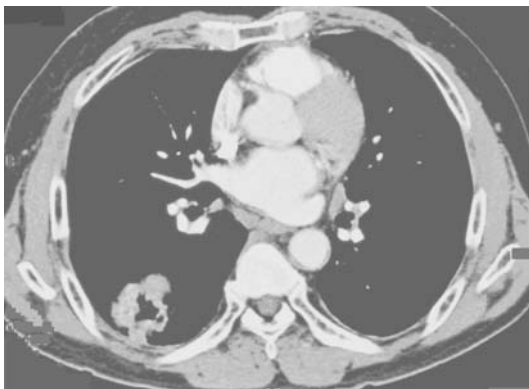
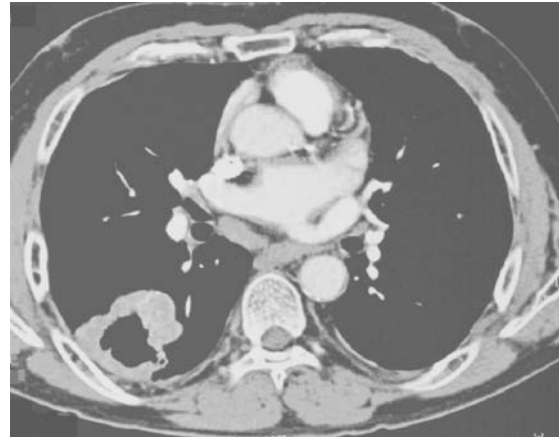
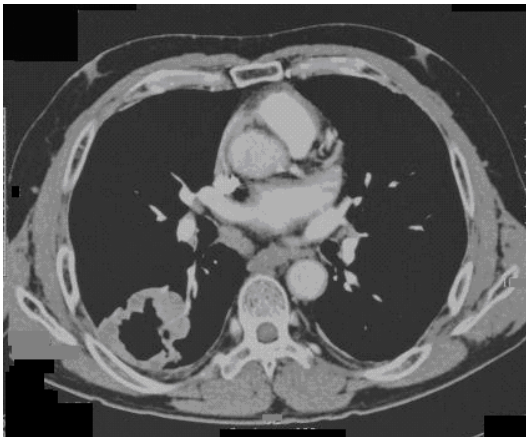
原発部位	右肺 末梢型 (肺野型)
組織型	扁平上皮癌

	胸膜プラーク	肺線維化所見
胸部 X 線フィルム	(+) 右側胸部	(-)
胸部 CT フィルム	(+)	(+)
胸部 HRCT フィルム	-	-
画像所見	胸部単純 X 線写真、胸部 CT ともに石灰化プラークを認める。	胸部単純 X 線写真では、肺線維化所見不明。 胸部 CT から小葉間隔壁の肥厚、散状のすりガラス陰影および小葉中心性索状影を認める。

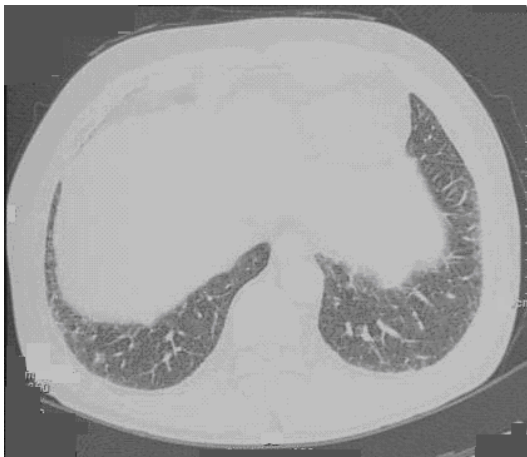
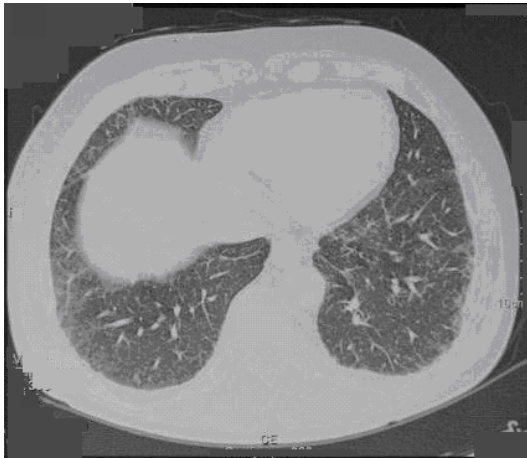
胸膜プラーク



胸膜プラーク



肺線維化所見





## 肺がん症例詳細検討結果

症 例 : 60 歳代 女性

石綿ばく露の可能性 (診断書および自記式アンケートより)

昭和 34~35 年 職場 (製造業) でアスベストを扱う。

## 現病歴

毎年検診を受けていたが、胸膜肥厚を指摘され経過観察していた。平成 19 年 6 月胸部異和感を自覚。胸部 X 線・CT 画像において異常影および胸膜肥厚を指摘。平成 19 年 7 月気管支鏡にて肺腺がんを診断。また転移性骨腫瘍を認めた。

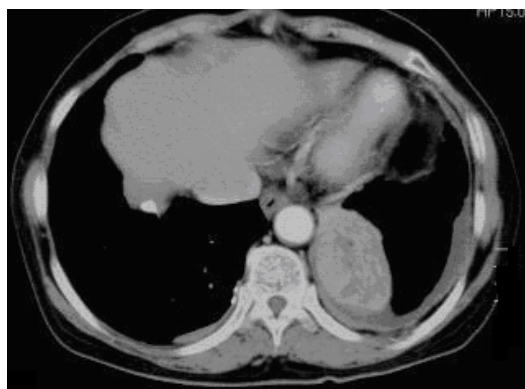
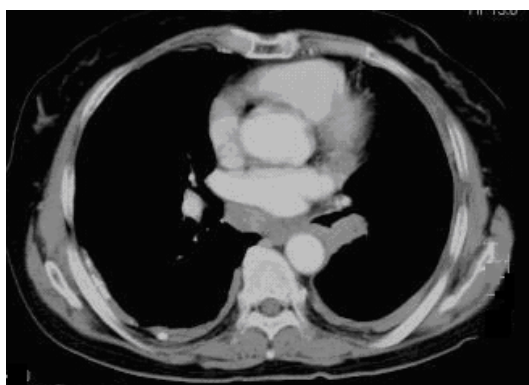
放射線画像所見 (エックス線フィルム、CT フィルムによる所見)

胸部エックス線フィルム	平成 19 年 7 月 1 枚
胸部 CT フィルム	平成 19 年 7 月 4 枚

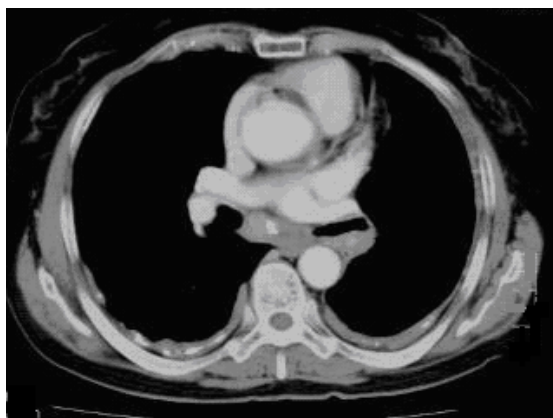
原発部位	左肺 肺門型
組織型	腺癌

	胸膜プラーク	肺線維化所見
胸部 X 線フィルム	(+)	(-)
胸部 CT フィルム	(+)	(+)
胸部 HRCT フィルム	-	-
画像所見	胸部単純 X 線写真および胸部 CT にて両側胸膜プラークが認められ、さらに、胸部 CT では両側石灰化プラークを認める。	胸部単純 X 線写真では、肺線維化所見不明。 胸部 CT にて胸膜下線状に肺線維化所見を認める。
その他画像所見	左下葉に肺門部肺がんによる無気肺を認める。	

腫瘍



胸膜プラーク肺線維化所見



肺線維化所見



## 肺がん症例詳細検討結果

症 例 : 80 歳代 男性

石綿ばく露の可能性 (診断書および自記式アンケートより)

昭和 18~20 年 海軍燃料廠実験部、濃縮部で業務。

## 現病歴

平成 19 年 6 月に咳嗽により受診。胸部 X 線にて石綿肺、肺がんが疑われ、平成 19 年 7 月に経気管支生検にて肺小細胞癌と診断。

放射線画像所見 (エックス線フィルム、CT フィルムによる所見)

胸部エックス線フィルム	平成 19 年 6 月	2 枚
胸部 CT フィルム	平成 19 年 7 月	6 枚

原発部位	左肺 末梢型 (肺野型)
組織型	小細胞癌

	胸膜プラーク	肺線維化所見
胸部 X 線フィルム	(+)	(+)
胸部 CT フィルム	(+)	(+)
胸部 HRCT フィルム	-	-
画像所見	胸部単純 X 線写真、胸部 CT ともに両側に典型的な石灰化プラークを認める。	胸部単純 X 線写真による肺線維化所見は軽度だが、胸部 CT では胸膜下線状影を主体とする肺線維化所見を認める。

## 腫瘍



胸膜プラーク



肺線維化所見



## 肺がん症例詳細検討結果

**症 例** : 80 歳代 男性

**石綿ばく露の可能性** (自記式アンケートより)

昭和 15～18 年 海軍工廠造船部にて造船に従事。

**現病歴**

胸膜プラークにて経過観察していたが、平成 18 年 5 月頃より右胸痛が出現。胸部 X 線上異常影を指摘され、平成 18 年 10 月 CT 下胸膜生検において肺がんと診断。

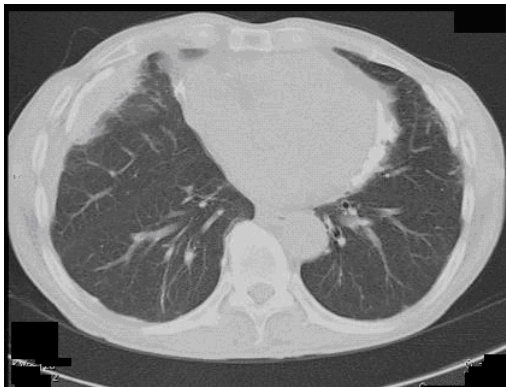
**放射線画像所見** (エックス線フィルム、CT フィルムによる所見)

胸部エックス線フィルム	平成 18 年 9 月	2 枚
胸部 CT フィルム	平成 19 年 9 月	4 枚
	平成 19 年 6 月	2 枚
胸部 HRCT フィルム	平成 19 年 6 月	1 枚
	平成 19 年 9 月	17 枚

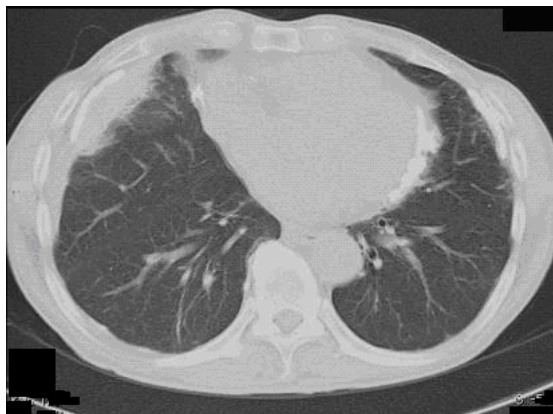
原発部位	右肺 末梢型 (肺野型)
組織型	扁平上皮癌

	胸膜プラーク	肺線維化所見
胸部 X 線フィルム	(+)	(-)
胸部 CT フィルム	(+)	(±)
胸部 HRCT フィルム	(+)	(+)
画像所見	胸部単純 X 線写真および胸部 CT にて両側石灰化プラークを認める。	胸部単純 X 線写真では肺線維化所見不明。 胸部 CT にて胸膜下線状陰影を認め、HRCT にてより明瞭に確認できる。

腫瘍



胸膜プラーク



肺線維化所見



## 肺がん症例詳細検討結果

症 例 : 60 歳代 男性

石綿ばく露の可能性 (診断書より)

18~25 歳まで石綿曝露歴あり

## 現病歴

平成 18 年 11 月、健診にて右上肺野の異常影を指摘され受診。平成 19 年 1 月、術中病理診断により肺腺癌の診断を得たため、胸腔鏡下右肺上葉切除術+リンパ節郭清術を施行。

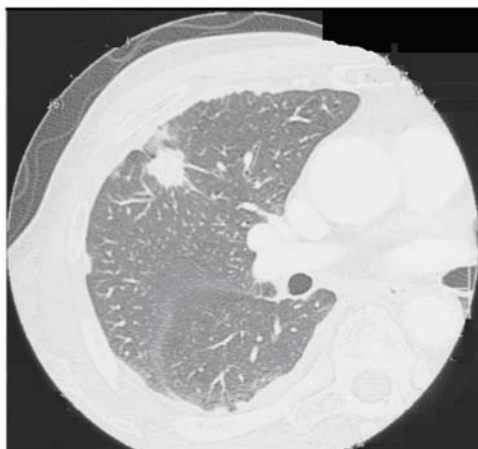
放射線画像所見 (エックス線フィルム、CT フィルムによる所見)

胸部エックス線フィルム	平成 18 年 11 月	1 枚
胸部 CT フィルム	平成 18 年 11 月	5 枚
胸部 HRCT フィルム	平成 19 年 7 月	2 枚
原発部位	右肺 末梢型 (肺野型)	
組織型	腺癌	

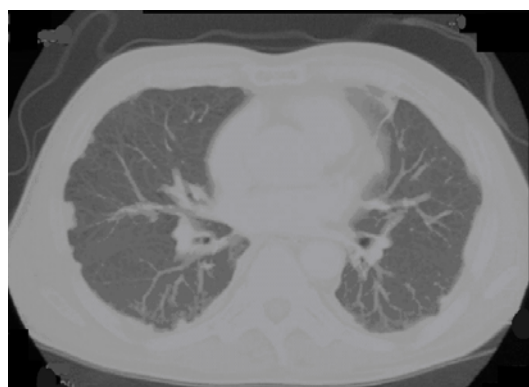
	胸膜プラーク	肺線維化所見
胸部 X 線フィルム	(+)	(-)
胸部 CT フィルム	(+)	(+)
胸部 HRCT フィルム	(+)	-
画像所見	胸部単純 X 線にて両側非石灰化プラークを認める。 胸部 CT にて両側石灰化プラークを認める。	胸部単純 X 線では肺線維化所見不明。 胸部 CT にてすりガラス陰影、小葉間隔壁肥厚および小葉中心性陰影を認める。 HRCT は、病変部 (右) 画像のため評価不能。



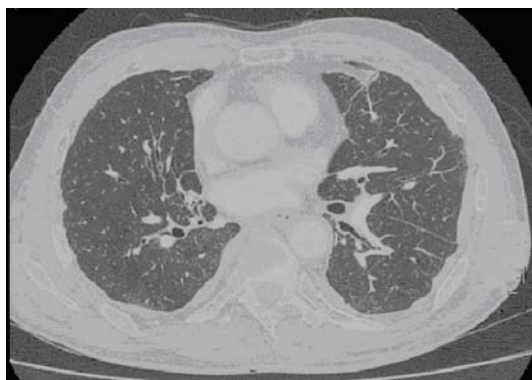
腫瘍



胸膜プラーク



肺線維化所見





## 肺がん症例詳細検討結果

症 例 : 70 歳代 男性

石綿ばく露の可能性 (診断書および自記式アンケートより)

昭和 22 年～平成 18 年 建築大工。

## 現病歴

平成 17 年より糖尿病、高血圧、高脂血症にて通院中。

平成 18 年 7 月、胸部 CT にて間質性肺炎を指摘されたが、腫瘤影を認めず。

平成 19 年 8 月、胸部 CT にて右肺上葉に腫瘍を認めた。同年 9 月、胸腔鏡下生検にて非小細胞肺癌の診断を得た後、右肺上葉切除＋リンパ節郭清を施行。

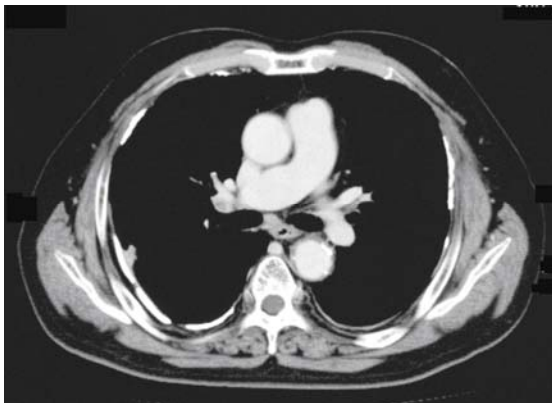
放射線画像所見 (エックス線フィルム、CT フィルムによる所見)

胸部エックス線フィルム	平成 19 年 8 月 2 枚
胸部 CT フィルム	平成 19 年 9 月 7 枚
HRCT フィルム	平成 19 年 9 月 1 枚

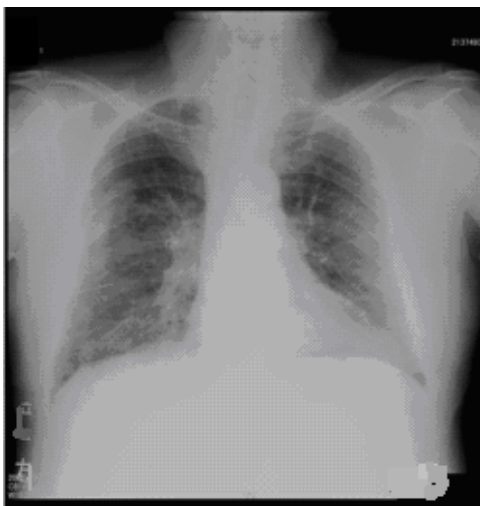
原発部位	右肺 末梢型 (肺野型)
組織型	扁平上皮癌

	胸膜プラーク	肺線維化所見
胸部 X 線フィルム	(+)	(+)
胸部 CT フィルム	(+)	(+)
胸部 HRCT フィルム	(+)	-
画像所見	胸部単純 X 線写真、胸部 CT および胸部 HRCT にて両側石灰化プラークを認める。	胸部単純 X 線にて肺線維化所見を認める。 胸部 CT にて気腫線維化および胸膜下線状陰影を認める。 HRCT は、病変部 (右) 画像のため評価不能。

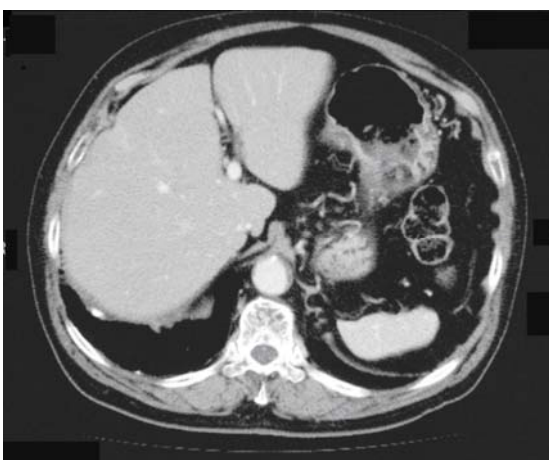
腫瘍



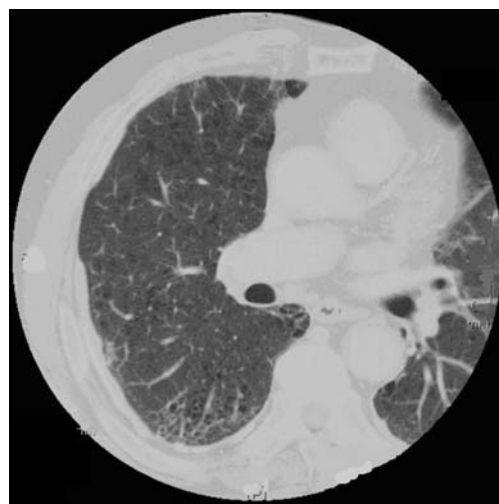
胸膜プラーク



胸膜プラーク



肺線維化所見



参考 研究協力医療機関等一覧

1/2

(敬称略)

医療機関名及び診療科目等	氏名
群馬大学附属病院 第一外科	堤 荘一
兵庫県立尼崎病院 外科	白潟 義晴
伊藤医院	伊藤 祐一
富士市立中央病院 内科	山田 治男
富士市立中央病院 内科	藤井 常宏
財団法人癌研究会有明病院 呼吸器内科	西尾 誠人
財団法人仙台市医療センター仙台オープン病院 院長	宮川 菊雄
財団法人仙台市医療センター仙台オープン病院 消化器外科・一般外科 副部長	本多 博
富山市民病院 内科	青山 庄
医療法人医仁会武田総合病院 外科	加藤 仁司
広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院 婦人科	岩沖 靖久
広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院 病理研究検査科	中川 達也
広島大学大学院 医歯薬総合研究科病理学	武島 幸男
高松市民病院 外科	木下 貴史
神綱病院 血液腫瘍内科	草間 俊行
沖縄県立八重山病院 内科	小橋川 嘉泉
東北大学医学部附属病院 腫瘍内科	石岡 千加史
東北大学医学部附属病院 病理部	渡辺 みか
浦安市・市川市病院組合 浦安市川市市民病院 外科	片見 厚夫
東京女子医科大学八千代医療センター 外科診療部消化管外科	大石 英人
静岡県立静岡がんセンター 消化器内科	小野澤 祐輔
藤枝市立総合病院 消化器科	三輪 一太
産業医科大学病院 産婦人科	川越 俊典
産業医科大学病院 産婦人科	北島 光泰
金沢医科大学病院 消化器内科	福山 智基
金沢医科大学病院 消化器内科	矢野 博一
岡山労災病院 呼吸器科	玄馬 顕一
帝京大学附属病院 内科	谷貝 朋美

2/2

(敬称略)

医療機関名及び診療科目等	氏名
広島西医療センター 呼吸器科	踊場 朋美
市立長浜病院 呼吸器外科	寺田 泰二
獨協医科大学病院 胸部外科	荻部 陽子
長崎大学病院 第2内科	中野 浩文
平塚共済病院 呼吸器科	浜口 玲央
新潟県立中央病院 内科（呼吸器）	小林 理
福岡県済生会二日市病院 呼吸器外科	蒔本 好史
東京大学医学部附属病院 呼吸器外科	深見 武史